

第 14 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

東京都立小石川中等教育学校 新井明 非常勤教員

参加数 : 6 回（※4 回まで東京都立国立高等学校で参加）

受賞履歴 : 敢闘賞 : 第 14 回（※第 14 回以前の受賞履歴を掲載しています）

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

現任校では、学校設定科目に「小石川フィロソフィー」（中等 4 年必修 2 単位）という時間があり、そのなかの「現代社会 in action」という講座を開講したことが再開のきっかけになりました。実は、この講座、模擬裁判コンテストへの参加、STOCK リーグへの参加、哲学対話への参加と三つの柱からなっていて、現代の問題を様々な活動のなかから格闘して発見してゆこうという趣旨の講座です。STOCK リーグは 9 月からの 2 学期一杯をかけて取り組むプログラムを作りました。生徒は、中等 3 年の時の公民の授業でおおよその経済の仕組みや株式に関しては知識があります。とはいえ、積極的に株式投資をしてみようと言う気持ちより、「一位はニューヨークだぜ」という新井の甘言に釣られて参加したと言うのが本音かもしれません。

STOCK リーグの取り組みについて

STOCK リーグのような外部の教材を使う時の難しさは、授業との整合性や生徒のレベルとの整合性があります。幸い「小石川フィロソフィー」では担当者が自分の問題意識や関心をもとに自由に講

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

座を展開してよいということでしたので、問題は生徒の関心とどこを焦点にしてポートフォリオを組ませるかという点の指導になります。

関心の点ではそれほど問題はなかったのですが、ポートフォリオの組ませ方は正直苦戦しています。

この三年間共通して実践しているのは、まず KJ 法のスタイルで生徒の関心ある事柄をすべて吐き出させ、そこから大きな方針をつかませてゆくと言う方法です。そのうえでポートフォリオのテーマを絞り込んでゆきます。そこまでが第一段階です。次は、実際の株式購入なのですが、テーマの方向が決まったとしてもそこから具体的な銘柄がすぐに浮かび上がるわけではないので、生徒は苦しみます。それを突破させるには、指導者の適切なアドバイスが必要ではないかと感じています。

第三段階は、レポート作りです。ここでは論文の作法のおさらいからはじめますが、これほど本格的なレポートを書くのは初めてですから、時間との闘いとなります。

本年度ははじめて、生徒にフィールドワーク行くことを強く勧めました。百聞は一見に如かず、です。工場見学をしたグループあり、科学館や筑波まででかけたグループあり、東京の限界集落を調査したグループありで、in action を実行したことがレポートの質にも反映されてきているのではと考えています。

参加を終えて

STOCK リーグに参加したことで最もよかったことは、ちょっとしたアドバイスで大きく関心や視点を広げてゆく生徒たちを見ることができたことです。今回奨励賞をいただいたグループでは、分析

の視点も含めて当初は五里霧中だったものが、B to B というキーワードを獲得することでどんどん視野を広げ、企業分析まで自ら始めてゆきました。また、身近なところに問題の芽が沢山あると言うことに気付いたチームもあります。学校の近くに旧理化学研究所の跡地があります。理研のその後を調べるだけでも多くの企業がそこから生まれていることに気付きます。和食をテーマにしたグループはそれを調べてびっくりでした。素朴ですが、それでいいのではないかと私は思っています。その意味では、投資銘柄選びの基準に専門家が使うような指標あまり無理に使わなくてもよいと言っていますし、ポートフォリオの成果に関しては長期投資を目指しているのだから気にするなと言ってきました。生徒が、10 年後 20 年後の社会や自分の姿を見据えて、しっかりテーマを選んでくれば大きな学習効果が期待できるはずです。しっかりしたサポート体制があり、様々な教材の提供も含めてこんな贅沢なしかけはあまりありません。レポート指導などを考えると、総合的な学習や課外のクラブ的なグループ活動の形で参加することになろうかと思います。自分たちの未来に投資するならどんなテーマでどんな企業にしたらよいかという問題意識さえあれば、気軽に参加して、生徒と共に考えてみるのが良いのではと思います。

第 14 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

琉球大学 桑原和典准 教授

参加数 : 5 回

受賞履歴 : 審査委員特別賞 : 第 11 回（※第 14 回以前の受賞履歴を掲載しています）

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

STOCK リーグに参加した経緯は、「学生に対して明確な目標を付与」することと「沖縄という地域性の打開」の 2 点です。

前者に関して、学生は、学習意欲はあるものの大半は何を何処から手を付ければ良いのか路頭に迷う傾向にあります。そこで株式市場という生きた教材は、学生にとって未知の世界であるが興味・関心を抱くテーマであり、株式投資という明確な目標を付与することで学生の学習に対するモチベーションが高まると考えたからです。後者に関して、沖縄という地域性から長所も多数ありますが、大きな問題点の 1 つとして学生間の比較があります。どうしても内地(沖縄では、本州を中心とした沖縄以外の日本を指します)の学生は優秀で敵わないと捉えており、同じ土俵で勝負できる機会が乏しいのが現状です。しかし、STOCK リーグはこの勝負できる場所であり、真剣に取り組めばそんなに格差はないことを実感させてくれます。このような背景を基に、我々琉球大学は STOCK リーグに参加しています。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

STOCK リーグの取り組みについて

取り組みについてのポイントは、「自主性」「グループワーク」「レポートの書き方」の3つです。

STOCK リーグを開始するにあたり、チーム編成からレポートの最終提出まで基本的に学生主体で行っています。もちろん、ゼミナールの時間で毎回発表するので、進捗状況に応じて質問やディスカッションを行い、全体的な方向修正をします。しかし、情報収集やレポート構成等は極力、学生の自主性を重視しています。次に、チームで何かを成し遂げる機会が少ない学生にとって、STOCK リーグでのグループワークは重要です。チームでの役割分担の重要性を理解したりグループ活動ならではの長所や短所を経験できたりすることは、今後の社会人生活に大いに役立つと考えています。

最後に、学生は日頃からスマートフォンやメールで端的に相手に伝わりやすい文章を書くことは得意だが、レポート等の論文調は苦手なようです。この STOCK リーグのレポート作成は、学生が真剣に文章を書く貴重な経験であり、図表等を利用していかに相手に読んでもらえるかを工夫するよう考えさせます。

参加を終えて

ゼミナール時に、発表するためのチームでの打ち合わせや資料づくり等の時間調整は想像以上に大変だったようです。

学生からは

- 大変だったが密度の濃い時間が過ごせた

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

- チームワークの大切さを学んだ
- 金融・会計分野の専門知識が身についた
- 就職活動のエントリーシートの書き方やネタが増えた

というポジティブな意見が多く聞かれ、実際に金融分野に就職する学生も増加傾向にあります。

これもこのプログラムの作成から審査まで多くの主催者の方々が尽力された結果と捉えています。

ここでお礼を申し上げるとともに、今後も STOCK リーグが継続することを願っています。

第 14 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

中央大学 商学部 高橋豊治 教授

参加数 : 11 回

受賞コメント

このたびは、NOMURA Award（特別協賛社賞）を頂き、ありがとうございます。これもひとえに、STOCK リーグに誘ってくれ、毎年継続的に参加してくれた学生たちのおかげです。学生たちが最優秀賞を受賞し、海外研修旅行に行けるよう、しっかり指導を続けたいと思います。

STOCK リーグ参加の経緯

そもそも STOCK リーグに参加しようと思いついたのは、担当科目である「証券投資論」の授業を履修している学生より、STOCK リーグに参加したいので顧問になってほしいと言われたのがきっかけでした。その時の経験から、テーマを決めてポートフォリオを作成するプロセスが、3 年次のゼミの学生の自主学習にぴったりだと思い、その後 3～5 人にグループに分かれ、自主的にテーマ設定を行い、参加するように指導してきました。

STOCK リーグの取り組みについて

STOCK リーグの良いところは、グループのみんなでどれだけ協力したか、どれだけ時間をかけたかが、目に見える形で成果に反映される点だと思います。最初に参加した学生たちは、自分たちで参加したいと言い出し私を誘っただけあってとても熱心でした。お互いに意見を出し合い、協力し、

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

こんなことをやりたいと考えているがどう思うか、こういうことを実現する手法はないか…。熱心なあまり終電を逃して歩いて帰った、といった大学生ならではのエピソードもありました。

また、ある年には、3グループがレポートを提出しましたが、それぞれの努力に応じて結果（審査員の評価）が異なっていたのが、とても印象的でした。

努力は裏切らない。チームワークは、個人の力を何十倍にも増幅する。当たり前のことだが、そうした基本的なことを大切にしたいと思っています。そして、そのためには、可能な限り学生たちの自主的な努力を引き出すよう心掛けています。

参加を終えて

学生たちが、投資対象企業の活動に興味を持ち、財務諸表や、経済データをはじめ、様々なデータを自分たちで工夫して加工する習慣がつけられたのは、非常に大きな成果だと思います。ある目的で加工済みのデータを引用するのではなく、加工される前の生のデータにアクセスし、自分たちでいろいろ工夫して、情報を取り出しやすいような加工をし、図表を工夫し、以下にわかりやすく有益な情報を引き出すかというのは、とても大切なことですが、きっかけがないと取り組むことができないのも事実です。STOCK リーグでは、ポートフォリオ投資のため、どのような銘柄を対象にするかを考える際には、その裏付けとなるデータが重要になります。最初は、雑誌や書籍などから図表を引用していた学生が、新しい指標を考えだして判断するようになるのは、素晴らしいことだと思います。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

逆に、STOCK リーグのテーマが、「株式投資を通じて経済を学ぼう」というものなので、生きた経済を学ぶことには変わらないものの、証券投資そのものを学ぶゼミのテーマと必ずしも同じ方向を向いていないのが、最大の悩みです。さらには、中学生・高校生・大学生が同じ土俵で、経済を学ぶという設定に難しさを感じていることも事実です。長期のポートフォリオ投資にもっとはっきり焦点を当てて、STOCK リーグへの参加をきっかけに、少しでも多くの中学生・高校生が証券投資に興味を持ってくれるような方向性になると良いと考えています。

これから参加を考えている生徒・学生の皆さんには、躊躇せず、まずは参加申し込みをしてほしいと思います。STOCK リーグで学んだことは、将来必ず大きな美しい花を咲かせるのに役立つはずです。そして、指導する先生方には、学生の成長を目の当たりにすることができるという最高のプレゼントが待っていることをお伝えしたいと思います。

最後になりましたが、最も重要なこととして、STOCK リーグをご支援いただいている、（主催の）日本経済新聞社、（特別協賛社の）野村グループ、（後援の）日本証券業協会、日本取引所グループ、全国公民科・社会科教育研究会、一般財団法人 日本私学教育研究所、公益財団法人 全国商業高等学校協会、文部科学省、金融庁の各団体、裏方として支えてくださっている STOCK リーグ事務局の皆様には、心からお礼を申し上げるとともに、今後も長くこの活動を続けていただきたいと思います。

第 14 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

東京経済大学 安田行宏 教授

参加数 : 7 回

受賞履歴 : 敢闘賞 : 第 9 回（※第 14 回以前の受賞履歴を掲載しています）

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

同じ大学の別のゼミが STOCK リーグに参加していることをゼミ生が知って「自分たちも参加したい」ということが最初の参加のきっかけでした。大学で何をすべきかビジョンを描きにくい時代だからこそ、具体的な目標の一つとして STOCK リーグに参加しました。教員としては最終的にまとめるレポート作成に強い魅力を感じています。ポートフォリオ決定のためにデータなどを集めて現状分析を行い、自分たちの頭で考えたオリジナルなアイデアを、説得力をもった形でレポートとしてまとめるという一連のプロセスの中に知的作業の醍醐味があると考えているからです。知識詰め込み型の記憶を軸とする勉強スタイルではなく、自分の頭でとことん考え、時には足を使いながら、自分たちなりに「正解を模索する」勉強スタイルを体得する良い機会だと思っています。

STOCK リーグの参加の有無に関わらず、1 学期には大学で学ぶべき標準的なファイナンス理論の教科書を丁寧にじっくりと時間をかけて輪読しています。経済・ファイナンスの学術的な考え方の基本を学ぶのが第一義的に重要だと考えているからです。その上で、実践的な学びの場の一つとして

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

STOCK リーグに参加しています。今まさに世界や日本で進行中の経済・金融問題に対して「アンテナを張って考える」ことの面白さを体感する機会となることを期待しています。

STOCK リーグの取り組みについて

学生が自主的に課題に取り組み、今できることに集中して努力する環境を整えるとともに、目の前の学生と向き合うことに最も留意しています。要は学生の味方でありたいと思って取り組んでいます。アイデアを模索する段階では、各自が納得できるまでディスカッションを行う場を数多く設けるように心がけています。一方、レポート作成の段階では、学生を信頼して全面的に任せています。結果として、レポートの作成を通じて何か纏まった「作品」を作り上げる充実感・達成感を学生が実感できれば成功と思ってやっています。

実際に STOCK リーグに参加すると、自分たちのオリジナルなポートフォリオやレポートを作ることの難しさを実感して悪戦苦闘します。例えば、日々の生活の中に実はたくさんのヒントや問題が潜んでいるにも関わらず、自分のアンテナを磨かないとなかなか気づけないことにもどかしさを感じます。一方、身近な問題から考えたことが実は日本社会の未来像を決定づける大きな問題であったりすることに学生が気づく瞬間があり、学生の視野が大きくなったと変化を実感できることがしばしばあります。

参加を終えて

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

STOCK リーグという全国規模の大きな大会が、いかにも「学生らしい体験」をする機会となっている点が最も良かったと思っています。経済や金融に関する実学的な知識が増えるのは言うまでもありません。しかし、「将来に役立つから」といった実利的な観点ばかりではなく、日本経済について、日本社会の未来像について、学生ならではの視点で「大きく考える」ことが学生時代には特に大切であると考えています。

このようにして STOCK リーグに学生が全力で取り組み、苦闘して出来上がったレポートの最初の読者となるのが毎年の密かな楽しみとなっています。近年ではレポートの審査プロセスも段階ごとに途中経過が発表されるので、その度ごとに学生の喜怒哀楽を目にします。それでも審査結果は学生には説得力があるようで、その結果をどのように受け止め、どのように今後活かしていくのかを考える貴重な機会になっていると感じています。

STOCK リーグに関わる全ての方々に対して感謝の気持ちを忘れずに、これからも金融を切り口に日本経済について学生と一緒に考え続けたいと思っています。